

講義録レポート

講義録コード

02-15-6-999- 01

講 座	公認会計士	項目 (例：入門Ⅰ)	セミナー
目標年	2015年目標	科目 (例：簿記)	—
コース	上級期学習法セミナー (論文式試験向け)	回 数	1 回
		通算回数	— 回
用 途	WEB ・ 衛星 ・ カセット通信 ・ VTR通信 ・ 資料通信		

収録日	2014 年 9 月 17 日		
講師名	吉野 先生	講義録 枚数	0 枚 ※レポート 含まず
		補助レジュメ 枚数	7 枚 (サイズ)

授業構成	→ 分		→ 分		→ 分		分
実施テスト	有	・ 無	(ミニテスト ・ 実力テスト ・ 【 】 答練)				回目
使用教材	●テキスト { ☆入門 (I ・ II) ☆基礎マスター (I ・ II ・ III ・ IV ・ V) ☆入門基礎マスター ☆上級 ☆修了試験対策 P. ~ P.						
	●その他テキスト[						

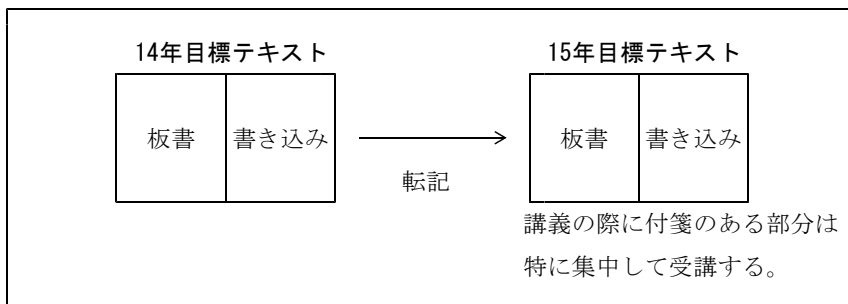
2015年合格目標 論文専攻上級コースガイダンス 配布レジュメ

I. 上級期の学習方法

1. 全科目共通

(1) 講義の予習

- ・ 次回の講義の学習範囲について、過年度のテキストから重要な板書や書き込み等を15年目標テキストに写しておく。
- ・ 理解できていない箇所や苦手とする箇所には、あらかじめ付箋を貼っておく。



(2) 講義の復習

- ・ 講義の学習進度をペースメーカーにして、次回の講義までに前回の講義の学習内容を完全に消化しておく。
- ・ 短答免除上級講義で取り扱わなかった箇所についても、併せて復習する。

(3) 入門・基礎マスターの内容は（可能な限り）完璧に

- ・ 入門・基礎マスターの内容が本試験で最も得点差がつきやすいため、苦手分野は早めに得意分野に変えてしまう。

(4) 過年度の教材

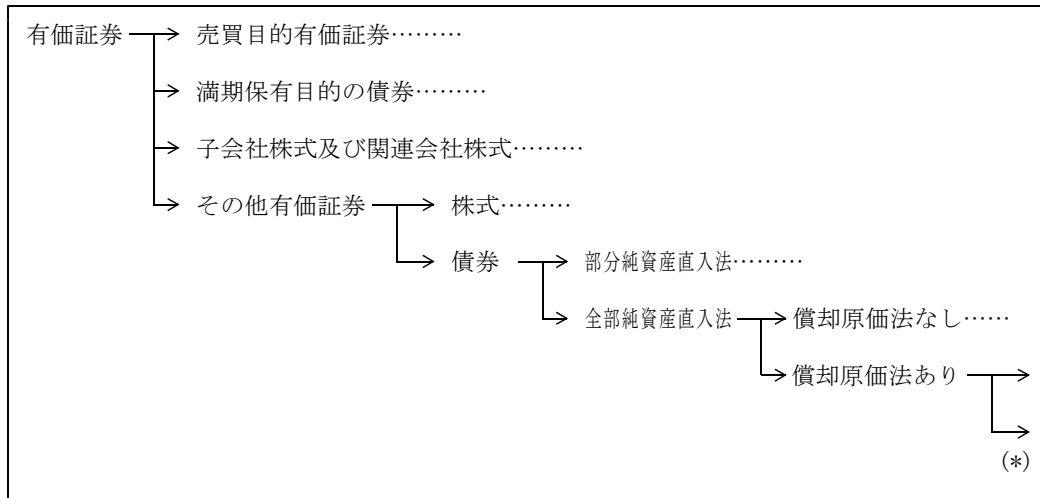
- ・ 過年度の教材については、前述のように予習の際に14年目標テキストへの転記を行った後は使用しない（学習対象を可能な限り一元化する。）。

2. 計算科目（財務会計論【計算編】，管理会計論，租税法）

(1) テキストの基本問題や例題の重要性

- ・ 総合問題は，個別の基本問題の組合せに過ぎない。
- ・ テキストの基本問題やトレーニングには全ての出題パターンが網羅されている。

(例) 市場価格のある有価証券の期末評価に関する出題パターン



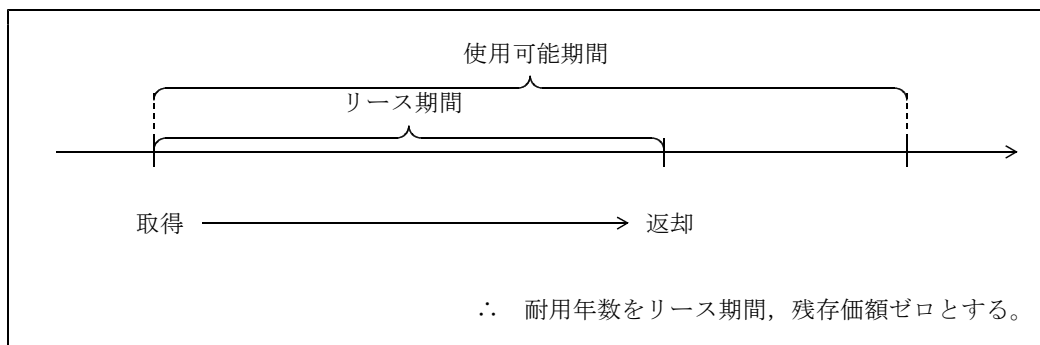
(*) さらには，利息法か定額法か？税効果会計を適用するか否か？減損処理を適用するか否か？等の論点がある。

(2) 計算方法の理由付けをおさえる

- ・ 理由付けのない計算手続の暗記は，すぐに忘れてしまう。
- ・ 応用問題の出来の良し悪しは，計算方法の根拠を理解しているか否かによって決まってくる。
- ・ 例えば，財務会計論【理論編】の「リース会計」を学習する前には，財務会計論【計算編】の「リース会計」の内容を復習しておく。

(例) 所有権移転外ファイナンス・リース（リース期間5年）によって機械装置を取得した。

当該リース資産を購入した場合の経済的使用可能期間は8年，残存価額は10%である。



(3) 答練やアクセスの使い方

- ・ 毎回の答練実施時は、制約条件（制限時間、体調、学習進度etc...）を与件とした上で、得点を最大化する努力を続ける。
- ・ 毎回の答練実施後は、間違えてしまった論点が自分の弱点であることを認識し、必ず基本テキストに戻って弱点を潰していく。

（例）答練で市場販売目的のソフトウェアの減価償却計算を間違えた場合

入門・基礎マスターテキストと上級テキストのソフトウェアの基本問題を再確認する。

- ・ 受注製作のソフトウェアの会計処理
- ・ 市場販売目的のソフトウェアの会計処理
- ・ 自社利用目的のソフトウェアの会計処理

(4) 論文式試験における計算科目の重要性

- ・ 短答式試験に限らず論文式試験においても、計算科目は得点差がついて合否に直結する。
- ・ 少なくとも、短答式試験合格時点の計算能力を維持した状態で論文式試験に臨む必要がある。

3. 理論科目（財務会計論【理論編】、監査論、企業法）

(1) テキストの読み込み

- ・ 例えば、テキストを3回読む場合には、1回目は、全体像を掴むことを意識しながら読む。2回目は、一言一句に注意してじっくり読む。最後に、確認問題等を使いながら一問一答の形式で読む。
- ・ 漫然と読むのではなく、意識的に読み方を変える。

テキストの読み込みの方法

- ① 一言一句に注意しながらゆっくりと読む（精読）。
 - ② 目次やテキストのタイトルを使って意図的に大雑把に読む（速読）。
 - ③ マーカーやアンダーラインを引いてある部分だけを抽出して読む。
 - ④ 確認問題を使って一問一答の形式で読む。
 - ⑤ 計算科目のテキストとセットにして読む。
 - ⑥ 会計基準等の原文とセットにして読む。
- … (etc.)

(2) 答練の使い方

- ・ (友人に口頭で説明する時と同様に) 問題文で問われていることに対して端的に答えることを意識する。
- ・ 自身のアウトプット能力の欠如を疑う前に、まずはインプット不足の可能性を考えてみる。
- ・ 答練の出題箇所については、必ず上級テキストの該当箇所に出題があった旨を記載しておく(例えば、該当頁に「基礎1・第3問・問1」と書き込む。)。
- ・ 返却された採点済答案について、論理飛躍や誤記載の箇所を自分自身で添削する。

(例) 自己添削のイメージ

問 資本助成目的の国庫補助金の交付を受けた場合と、ストック・オプションが権利不行使によって失効した場合には、会計理論上、利益を認識すべきとする見解と利益を認識すべきではないとする見解が存在する。

しかしながら、「資本取引」という考え方を用いれば、このような取引を行った場合の制度上の会計処理を首尾一貫して説明することができる。そこで、このような説明を200字以内(横書き)で示しなさい。なお、説明にあたっては、以下の①～③の内容を必ず盛り込むこと。

- ① 「資本取引」の意味。
- ② 国庫補助金受贈益の取扱い。
- ③ 新株予約権戻入益の取扱い。

(誤解)

(論理飛躍)

企業の所有者or報告主体の所有者

企業の所有者である株主以外から受取るものであるため

資本取引とは、報告主体である株主との直接的な取引をいう。国庫補助金の受贈は、資本取引ではない。また、ストック・オプションの失効は、新株予約権者との取引であるため資本取引ではない。したがって、国庫補助金受贈益と新株予約権戻入益は損益計算として処理する。なお、会計理論上は、いずれの取引についても資本取引とする見解もある。

(問いに対する解答) 利益

(余事記載)

(誤解・不適切な表現) スtock・オプションを付与したことに伴う純資産の増加が企業の所有者である株主以外との取引によって生じたこととなるため

Ⅱ. 短答免除 論文専攻上級本科生コースについて

1. 論文専攻上級本科生受講のメリット

- ・ 論文式試験において出題可能性が高い分野を効率的に学習できる。
- ・ 講義の受講時間を節約して、自習時間に注力することができる。
- ・ 科目別に通常のレギュラー講義と圧縮講義を選択することができる。

2. Re-viewセット本科生について

(1) 概 要

- ・ 財務会計論【計算編】，管理会計論，租税法における入門・基礎マスターコースの内容を再確認する。

(2) 受講対象者

- ・ 入門・基礎マスターの学習内容の理解に不安がある方
- ・ 本試験を受験したものの，入門・基礎マスターまでの内容が弱点となっている方
- ・ TAC以外の予備校や大学等で学習していた方

(3) 受講のメリット

- ・ 合格する上で最も重要な基礎論点における各自の弱点を克服できること
- ・ 苦手分野を得意分野に変える。
- ・ 入門・基礎マスターのテキストを入手できる。

3. アクセス答練について

(1) 概 要

- ・ 財務会計論（全24回，7月～），管理会計論（全24回，8月～），租税法（全10回，2月～）の答案作成演習
- ・ 財務会計論と管理会計論の1～10回目は短答式試験対策，11～24回目は論文式試験対策

(2) 受講対象者

- ・ 全ての受講生

(3) 受講のメリット

- ・ 計算問題を中心としたアウトプットの経験を積むこと
- ・ 朝クラスの受講で学習のペースを掴むこと
- ・ 自分の弱点を発見すること

4. 理論補強答練について

(1) 概 要

- ・ 論文作成スキルを高めるためのアウトプット・トレーニング
- ・ 財務会計論（理論）・監査論・企業法は全3回，経営学は全2回（4月～5月に実施）
- ・ 4月～5月に実施

(2) 受講対象者

- ・ 短答式試験合格者

(3) 受講のメリット

- ・ 論文作成スキルの向上を目的としたアウトプットの経験を積むことができる。
- ・ 難問に直面した際の現場思考力を養うことができる。

5. 学習中のフォロー

(1) 講義音声DLフォロー

- ・ 講義に欠席した場合には，教室講義の音声ファイルや講義録のファイルをWEBからダウンロードできる。

(2) 会計士講座専用HP「@CPA（<http://www.cpa-tac.com/>）」

- ・ 公認会計士試験関連の情報，講義日程や就職関連情報等の必要な情報をすべて確認できる。
- ・ 成績や合格率の判定

(3) 質問コーナーや質問メール等

- ・ わからないことがあれば，早めに講師に質問する。
- ・ 学習内容以外の悩みや不安も公認会計士試験合格者に直接相談できる。

(4) 就職サポート

- ・ 就職状況や採用傾向等についてのタイムリーな情報提供
- ・ 就職活動対策のアドバイス（ビジネスマナーからエントリーシートの添削，模擬面接までプロの人事コンサルタントの指導を受けられる）
- ・ 個別進路就職指導（電話相談や窓口相談が可能）